

子どもの人権講座 2026



子どもが豊かに育つために

①5/30(土)

乳幼児からはじまる性教育

講師：北山ひと美さん(和光小学校・和光幼稚園前校園長、
一般社団法人“人間と性”教育研究協議会代表幹事)

②6/11(木)

子どもとSNS

講師：高橋 暁子さん (ITジャーナリスト、成蹊大学客員教授)

③6/20(土)

「父親(おやじ)」が気づいた遊びの権利

講師：小林 浩さん (日本社会教育士会理事)

④6/27(土)

子どもが学校にいかなくなるとき

※ 講座終了後に振り返りの時間があります。

講師：朝倉 景樹さん (教育社会学者、NPO法人 TDU・雫穿大学代表)

場所 小金井市公民館本館

時間 14:00~16:00

定員 各回30人(多数抽選)

対象 市内在住、在勤、在学の方

参加費 無料

保育 あり(2歳以上)

※ 2歳未満のお子さんは同室で参加できます。

お申し込み方法

5月13日(水)(必着)迄に、申込フォーム、Eメールまたは往復はがきに①住所②氏名(フリガナ)③年代④電話番号⑤参加希望の回の番号(複数回参加可)⑥保育の有無(有の場合はお子様の名前、月齢)を明記し、公民館本館「子どもの人権」係へお申し込みください。

問合せ電話番号：042-383-1184

住所 〒184-0004 本町2-15-11 ☒ k020499@koganei-shi.jp



【案内図】



〈過去の講座の感想〉

小金井市子どもの人権講座は2007年から始まり、今年度で20回目です。この講座は準備会が開催され、子どもの権利をわかりやすく学ぼうと、公民館職員、企画実行委員、市民が相談しながら作っています。これまで行ってきた講座のほんの一部ですが、感想を抜粋してご紹介します。

(※講師の肩書は当時のものです。感想は個人が特定されない形で掲載します。)

泣いたときはどうするの？～自主性・主体性とわがままの違い～ 2015.6.5

講師：柿田 雅子さん（実践女子大学非常勤講師・元公立保育園園長）

【感想】乳幼児期の発達段階に示す行動の意味がよく理解できました。子どもの「いやだいやだ」に困っていましたが「いやだ」はとても大事なことだということや、子どもにとって受け止めてもらうことの大切さについて聞くことができよかったです。「わがまま」と言われて育った自分ですが、本当にそれはわがままだったのかな…？と思いました。

自分を大切にすること～子どもの人権とは～ 2017.6.15

講師：三坂 彰彦さん（弁護士）

【感想】子どもにも大切な人権があることを改めて認識しました。親の「よかれ」という思いが子どもを追い詰めてしまうことがある、また、教育虐待ということもあるのだと知りました。もう一度自分の子どもに対する言動などを振り返るよい機会になりました。ありのままの子どもを大好きと言えるように、そして子ども自身が「自分を好き」と思える子に育ててほしいと強く思いました。

生きる力を育むため～なにげない時間の大切さ～ 2018.6.6

講師：増山 均さん（早稲田大学名誉教授）

【感想】子どもがする余計なこと無駄なことを受け止められないことがありましたが、子どもには遊びや余暇、のんびりする権利があることを知りました。将来が心配すぎて、子どもが失敗しないように先回りして声をかけ、子どものやる気を奪っていたかもしれません。「価値を問わない時間」を子どもと大切にしようと思いました。

子どものためって何だろう～見えますか、子どものシグナル～ 2019.5.30

講師：広木 克行さん（神戸大学名誉教授）

【感想】心にしみる話で涙がでて困りました…。子どもの甘えを受けとめていいということ、逃げ場があっていいということ、とてもうれしい言葉でした。いつも怒ってばかりなのですが、帰ったら子どもをやさしく抱きしめようと思います。我が子と共に育ちあっていきたいと思います。

家庭でできる性教育～性の健康をたいせつに考えること～ 2020.6.11

講師：土屋 麻由美さん（NPO法人ピッコラーレ副代表・助産師）

【感想】毎回、性教育の講座には感動しますが、今年も期待にたがわぬ内容で、もっと多くの人に聞いてもらいたいと思いました。性に関する話だけでなく、性教育＝人権教育という考え方がとても心に残りました。子どもの命、心を守るために親子で話せる機会を作れたらと思いました。

子ども・若者の声にできないSOS～なぜ子どもの自殺が多いのか？～ 2022.7.22

講師：松本 俊彦さん（国立研究法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部 部長）

【感想】市販薬乱用の増加や子どもの自殺や自傷行為の背景にある困難について深く理解できました。「死にたい」を「つらい」に変えられる支援について聞くことができ、自分ができる事の一步を踏みだす勇気をもらいました。子どもたちにも正確な情報を伝える必要性を感じましたし、より多くの人に参加できる機会が必要だと思いました。